

浜の宮王子（熊野三所大神社）

浜の宮王子は海のそばにあった王子社で、もとは隣接する補陀洛山寺の一部でした。その浜と広い海の景色は、多くの熊野詣の紀行録の中で讃えられています。浜の宮王子の周りの木立は渚の森と呼ばれていました。現在の境内にはこの森の一部が残されています。

19世紀後期、浜の宮王子は補陀洛山寺から分離され、熊野三所大神社と改称されました。1648年に最後に建て直されたこの神社の本殿は国の重要文化財に指定されています。熊野三所大神社は熊野三所権現（家都御子大神、御子速玉大神、熊野夫須美大神）を祀っています。

また、熊野三所大神社には二社の摂社もあり、これらはそれぞれ本殿の両側に建てられています。右側の社殿は熊野に上陸した初代神武天皇に抗戦し敗北した丹敷戸畔を祀っています。反対側は食と稲作の神である御食津神（三狐神）を祀っています。

王子社とは

王子社は熊野三山の御子神を祀る諸神社でした。王子社は参詣道沿いに立っており、その中には簡素な拝所だったものもあれば、疲れた参詣者のために宿泊施設に加えて風呂まで提供したものもありました。王子社は古代の修験者によって保守されていた手向の神に起源を持ち、明治時代（1868-1912）初期に神社として独立するか廃社となりました。